



# コントロールセンタ 配備ガイド

*Release 11.5/Composer*

---

© 2002-2006 Unify Corporation All rights reserved. Sacramento California, USA

No part of this tutorial may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Documentation Group values and appreciates any comments you may have concerning our documents. Please address comments to:

doc@unify.com

(800) 468-6276 or (800) 468-6343; (916) 928-6400  
FAX (916) 928-6401

UNIFY and DataServer are registered trademarks of Unify Corporation. Unify NXJ is a trademark of Unify Corporation. Java and J2EE are registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries. JReport is a trademark of Jinfonet Corporation. IBM, Lotus, Lotus Notes, Cloudscape, and WebSphere are trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both. CAS AHL Technology and ecKnowledge are registered trademarks of CAS AHL Technology, Inc. in the U.S. and other countries. All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

Name: Control Center Deployment Guide

Release: Unify NXJ 11.5/Composer

Last Revision: January 18, 2006 1:14 pm

---

# コントロールセンタ配備ガイド

ActiveWorkflow には、コントロールセンタの一部として組み込まれたサーバコンポーネントが含まれます。これらのコンポーネントは、個別にライセンスされる機能です。ActiveWorkflow がライセンスされている場合には、ActiveWorkflow サーバコンポーネントがコントロールセンタに配備されます。

## ActiveWorkflow の構成

いくつかのケースでは、ActiveWorkflow サーバコンポーネントの構成プロパティを変更する必要があります。Unify NXJ は、ActiveWorkflow 構成ユーティリティと呼ばれるこれらのプロパティを設定するユーティリティを含んでいます。

ActiveWorkflow 構成ユーティリティの使い方については、『ActiveWorkflow Online Help』を参照してください。

ActiveWorkflow 構成プロパティの変更後、コントロールセンタ管理ユーティリティを実行して配備されているコントロールセンタのインスタンスを更新する必要があることに注意してください。コントロールセンタ管理ユーティリティの使い方については、『管理者ガイド』を参照してください。

## データソース

ActiveWorkflow サーバコンポーネントは、1つあるいは複数のデータベースシステムにアクセスをして、ビジネスプロセス管理ツール情報の一貫性を保持します。

ActiveWorkflow サーバコンポーネントからデータベースシステムへのアクセスを行うには、使用する Java アプリケーションサーバの構成にデータソースを作成する必要があります。

---

ります。各データベースシステムに1つのデータソースが必要です。必要に応じて、ActiveWorkflow サーバコンポーネントのすべての関連情報を1つのデータベースに保持することも可能です。

様々な構成プロパティに割り当てられている JNDI 名を使用して、ActiveWorkflow サーバコンポーネントはデータソースを参照します。

デフォルトでは、データソース JNDI 名の構成プロパティには、すべて "java: / NXJCCDS" という同じ値が割り当てられます。これらの構成プロパティの実際の値は次のような要因で決まります。 - 使用する Java アプリケーションサーバの JNDI 名のフォーマット。 - データソースに割り当てられる実際の JNDI 名。 - 各 ActiveWorkflow サーバコンポーネントが同じデータソースを使用するかどうか。

以下の ActiveWorkflow サーバコンポーネントは、データソース Process Object Service の JNDI 名を指定する構成プロパティを持っています。

Process Object Service は、ActiveWorkflow システムの重要なデータソースです。プロパティは "ds.name" と呼ばれ、ProcessObjectService.properties の構成の page.Attachments にあります。

Attachments サービスは、添付ファイルを管理します。プロパティは "attachments.ds.name" と呼ばれ、Portal.properties の構成の page.Audit Trail にあります。

Audit Trail システムは、監査システムを管理します。プロパティは、"audit.ds.name" と呼ばれ、AuditTrail.properties の構成の page.Quartz Scheduler にあります。

Quartz Scheduler システムでは、"org.quartz.dataSource.R5DS.jndiURL" と "org.quartz.dataSource.R5Unmanaged.jndiURL" と呼ばれる2つのデータソースを使用します。これらのプロパティは、quartz.properties の構成ページにあります。

使用する Java アプリケーションサーバに必要な JDBC データソースを構成した場合、各データソースの正しい JNDI 名に構成プロパティを更新してください。使用する Java アプリケーションサーバでの JDBC データソースの作成と正しい JNDI 名を決定する方法についての詳細は、このドキュメントの後の章を参照してください。

WebLogic で Oracle データソースを使用する場合、『管理者ガイド』の「データソース定義」を参照してください。

## JMS

JMS のサポートは、アプリケーションサーバによって異なります。

使用するアプリケーションサーバが JMS をサポートしている場合は、以下のことを実行します。

- 
1. ActiveWorkflow のアプリケーションサーバにおいて、Policy Topic への接続に使用する JMS Connection Factory を設定します。Connection Factory の JNDI 名は "PolicyExecutionService.properties" という名前の ActiveWorkflow 構成ページにある 'policyExecutionConnectionFactory' プロパティの値と一致している必要があります。プロパティのデフォルトは、"UILConnectionFactory" です。
  2. ActiveWorkflow がメッセージを Publish/Subscribe するアプリケーションサーバに JMS Topic を設定します。JMS Topic の JNDI 名は "topic/ BPMEvents" でなければなりません。

使用するアプリケーションサーバが JMS をサポートしていない場合は、以下のことを実行してください。

1. "PolicyExecutionService.properties" という名前の Active Workflow 構成ページで 'use.session.bean' プロパティの値を "true" に設定します。
2. BPMSEar.ear 内にある BPMEJB.jar ファイルで、"META-INF/ejb-jar.xml" を編集して 'PolicyExecutionMessageBean' のデプロイメントディスクリプタをコメントアウトし、'PolicyExecutionServer' セッションビーンズのデプロイメントディスクリプタのコメントを外します。

## JAAS

ActiveWorkflow は、JAAS 認証モジュールを使用して認証メカニズムを公開しています。ActiveWorkflow は、いくつかのログインモジュールをバンドルしています。一部のアプリケーションサーバでは、設定時にセキュリティドメインをログインモジュールに組み込むことができます。また、ActiveWorkflow は必要に応じてそれらのログインモジュールを内部的に活用できます。

ActiveWorkflow にそのログインモジュールを自動的に使用したい場合は、以下のことを実行してください。

1. "AuthenticationService.properties" という名前の ActiveWorkflow 構成ページで 'module.is.external' プロパティの値を "false" に設定します。このプロパティのデフォルトの値は "false" です。
2. 特定のアプリケーションサーバでは、更にいくつかの作業を行う必要があるかもしれません。詳細については、『管理者ガイド』の「データソース定義」を参照してください。

ActiveWorkflow のログインモジュールをアプリケーションサーバの機能を使用して手動で設定する場合には、以下のことを実行してください。

1. 作成したいセキュリティドメインの名前を選択します。1つあるいは複数の使用したいログインモジュールにその名前をバインドします (ActiveWorkflow は、com.unify.nxj.bpm.engine.services.authentication.CVSLoginModule を含むいくつかのログインモジュールを提供しています)。
2. "AuthenticationService.properties" という名前の ActiveWorkflow 構成ページで、'module.is.external' プロパティの値を "true" に設定します。このプロパティのデフォルトの値は "false" です。

- 
3. "AuthenticationService.properties" という名前の ActiveWorkflow 構成ページで、'login.module' プロパティに先に選択したセキュリティドメイン名を設定します。

## Log4J

ActiveWorkflow は Log4J を使用してログファイルを書き出します。ActiveWorkflow が使用する Log4J 設定は、"log4j.properties" という名前の ActiveWorkflow 構成ページにあります。このページで、ActiveWorkflow ログファイルへのパスを指定します。パスは、一般的にアプリケーションサーバの作業ディレクトリとの相対パスで、必要に応じて変更することができます。

ほとんどの配備では、Log4J クラスは NXJ 指定のクラスローダーでロードして、log4j.properties を使用して初期化します。そのような環境で、ActiveWorkflow のログ機能は動作します。しかしながら、その他のアプリケーションあるいはアプリケーションサーバ自身が同じく Log4J を使用していて、また NXJ が Log4J クラスをロードする前に他の Log4J がロードされており、その他の Log4J クラスが NXJ 専用のクラスローダーよりも階層的に上位にロードされている場合、ActiveWorkflow は既に初期化されている Log4J システムを使用します。この場合、その Log4J システムの構成を変更して、Log4J システムが期待通りに ActiveWorkflow ログファイルを扱うようにしなければなりません。例えば、"log4j.properties" という名前の ActiveWorkflow 構成ページからその他の Log4J システムの構成ファイルにマージすることができます。

JBoss アプリケーションサーバは、Log4J の XML 構成ファイルを使用します。NXJ リリースでは、jboss/server/default/conf ディレクトリにある log4j.xml ファイルは、ActiveWorkflow のログ機能を設定するために変更されています。

## アプリケーションサーバ

アプリケーションサーバの設定に関する情報は、『管理者ガイド』の「データソース定義」のセクションを参照してください。

## データベース

データリポジトリのために使用されるデータベースの設定に関する情報は、『管理者ガイド』の「コントロールセンタデータリポジトリの構成」を参照してください。